

自己制御学習に関する研究(1)

—未知な語の学習における学習方法やテスト時期の予告の効果—

○岡 直 樹 桐 木 建 始
(福岡教育大学) (広島女学院大学)

本研究では未知な語の学習について、学習の自己制御の観点から検討する。そのため、学習方法とテストまでの期間に着目し、プライミング効果を指標に分析を試みる。学習材料としての未知な語には、ウチナーグチを用いることとした。

方 法

被験者 被験者は大学生36名。学習方法の異なる3条件へそれぞれ男子4名、女子8名ずつ、無作為に配分した。

実験計画 3×2×3の要因計画。第1の要因はウチナーグチの学習方法について、提示される例文を見ながら学習する文提示条件、自分の学習しやすい方法で自由に学習する自由条件、ウチナーグチを用いた文を自分で作成しながら学習する文作成条件。第2の要因はテスト時期の予告について、直後のテストを予告する直後条件と1週間後のテストを予告する1週間後条件。第3の要因はプライムとターゲットの関連性について、プライム(ウチナーグチ)に対応する共通語がターゲットとして提示されるMR条件、プライムとターゲットの共通語が意味的に関連するSR条件、プライムとターゲットの共通語が無関連なUR条件。第1の要因のみ被験者間変数であった。

材料 学習材料のウチナーグチは、カタカナで表記した2~5文字の語48語。学習セッションの文提示条件の例文には、ウチナーグチを含む2~5文節の文を3文作成し用いた。ウチナーグチ48語は12語ずつ4ブロックに配分した。語彙判断課題のターゲットはカタカナ、ひらがな、漢字で表記した2~5文字の共通語。ウチナーグチ1語についてMR, SR, UR条件用の共通語を1語ずつ、またNO条件用の無意味語2語をターゲットとして用意した。

手続き 実験は個別的に行なった。まず、練習試行としてウチナーグチ6語の学習セッションと、その6語に対する語彙判断課題を30試行を行った。その後、ウチナーグチ12語の学習セッションと、その12語に関する語彙判断

セッションを1ブロックとし、合計4ブロック実験試行を行った。各ブロックの学習セッションでは、ウチナーグチは1語につき21秒提示した。なお、文提示条件では、1文につき7秒間ずつ3文提示した。学習セッションの後に3桁の数の逆算課題を30秒課した。語彙判断は1つの学習セッション終了ごとに行なった。語彙判断の試行においては、まず凝視点(+)を1000 ms提示し、100 msのブランクをおいてプライムを100 ms提示した。続けて100 msのブランクにおいて、ターゲットを1000 ms提示した。プライムに対する課題は黙読、ターゲットに対する課題は語彙判断とした。リスト内の提示順序はランダムにした。

結 果 および 考 察

語彙判断課題におけるRTはFig. 1に示されている。分散分析の結果プライムとターゲットの関連性の主効果($F(2, 66)=73.47, p<.001$)とテスト時期の予告×プライムとターゲットの関連性の交互作用が有意であった($F(2, 66)=5.76, p<.005$)。下位検定の結果、1週間後条件ではSR条件のRTにプライミング効果が認められたが、直後条件では認められなかった。

このような結果は、1週間後条件では学習したウチナーグチから、それと関連する共通語へ活性化が拡散するように、ウチナーグチが既有知識へ組み込まれる学習がなされたが、直後条件では活性化が拡散するような形では学習されなかったことを示唆している。つまり、テスト時期に合わせて、既有知識への組み込み方を変えた学習がなされるといえる。

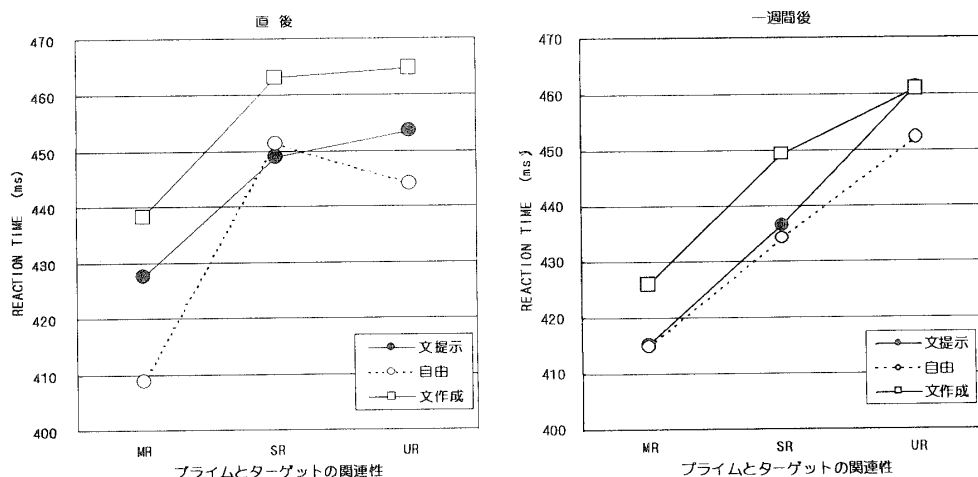


Fig. 1 語彙判断課題におけるRT